

歯歯塚供養会とは

「歯歯塚」は大須観音の本堂の左手奥にあり、昭和 52 年 6 月 29 日に着工して同年 8 月 8 日に完成、除幕式が挙行されました。

愛知学院大学歯学部顧問の岡本清纒、岡戸武平氏、大須ういろ社長山田昇平氏の 3 名が発起人代表で「歯歯塚の会」が発足し、塚には抜けた歯だけでなく役割を終えた義歯も納めるというもので、両方を納める塚は国内では初めてであり、おそらく世界でも初めてであろうと思われます。

「歯歯塚」の文字は元愛知県知事 桑原幹根氏の書で、岡戸武平氏が書いた「歯よ、入れ歯よ、よく働いてくれた、不要になったからといって、どうしてお前を捨てられよう。その安住の地が即ちこの『歯歯塚』である。これからはもう物を噛む必要もない。のんびりとこの塚の中で休養してもらいたい。その意味で建立されたのがこの塚である。歯よ、入れ歯よ、長い間ご苦労さんでした。」昭和 52 年 8 月 8 日 世話人一同という碑文が刻まれています。塚の周りには人間の歯を型どって上下 28 本を象徴した高さ 50 c m の花崗岩 28 個が配置されております。「歯歯塚」という名跡は岡本先生の提案を尊重されて母（母性愛）に通ずると共に、この塚に葬る歯と義歯の 2 種類としたことから来ております。この後、毎年 8 月 8 日に供養会が厳かに営まれてまいりました。

そして、平成 13 年より愛知県歯科医師会が「歯歯塚」の趣旨に賛同し、主催することとなり、歯歯塚供養会を通して多くの方々へ歯科保健の重要性をお考え頂く啓発活動のお手伝いをさせていただいております。